



会 報 第 5 号

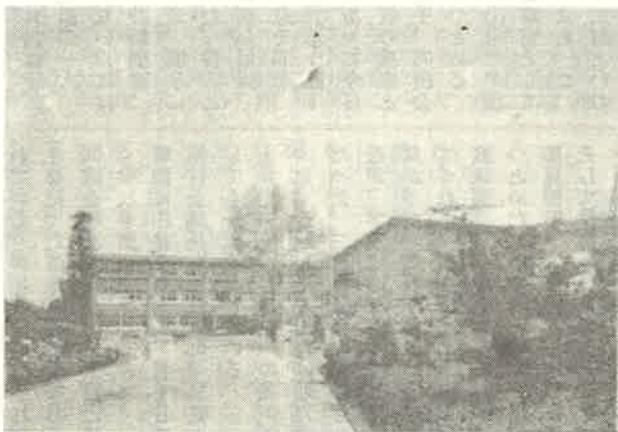
発 行 所
栃木県立真岡農業高等学校
同 窓 会
発 行 人
同 上 編 集 部
印 刷 所
森 田 印 刷 所

校 歌

一、あーたには あさ日をあびて
ゆふよりは 星かげ肩に
まなむそらに 若い力が
梅の木にまみれ みどり
若い力が 国をわたり

二、ゆふは雲れそらにのぞいて
あつたあつた 歌
あつた血涙がもたらしたのが
那須の風のふちをわたり
もういづれは 国をわたり

三、みづの都よりわたり筑波
夢のおもひの園に
むつと 春のきこえ
幸い湖の文をすくうと
ささい情が 世界をわたり



選 挙 の こ ろ

同窓会長 田 上 昇

いよいよ各種の選挙の季節となるようだ。日々の新聞からも関心を高められる。報道を待つまでもなく誰れもが気がかりなのは唯一

政治参加の期待だけでなく明日の生活に直にかゝり、わが国に感じられるからだ。

政治参加の期待だけでなく明日の生活に直にかゝり、わが国に感じられるからだ。

できないもんだらうかとさえ思いたくなる。

先進国はどうかだろうと思つと、やっぱり選挙をやっている。

何十年何百年と交りなくやっている。それを思えば選挙には欠点はあつても、それ以上の代案がでるまではやっぱり我慢して選挙をやつて、良い人を選ぶ方法以外はないのかと思つざるを得ない。

廻り道のようにだけ良い政治をやるようにするには良い選挙をやりぬくことが人々に課された宿命とでもいうものだろうか。

勿論選挙は一人一票で行われるいわゆる国民の総意であり市民の総意となる。そこに大きな意義を感じるのだから注意したいことがある。それは美しい国民性として賛美されている「人情美」の使い方である。いわゆる友人親類その他縁故ある人の依頼に弱い。縁故がなくても僅かの金品を贈られると

その人情にもろい。美しい「人情美」がかえつて仇となつて折角の選挙が台なしになることがあることだ。

選良必ずしも選良でないなどを絶無するためには人情の美風に酔うことなく良職と勇気の働きによって選良が生れる選挙にしたいものだ。

教育の場は政治に中立であるから誤解を受け易い同窓会誌にはふれたくないが多くの人が毛嫌いがちな選挙のことだからあえて自分達をばいまして良い選挙をやる事が生臭い政治とは切り離して「ベター」な教育にもとおせたい申しあげる。

学校でも生徒会や学級の委員を決めるとき、職員間の責任のポストを決めるときにも選挙する。それらのことを通して選挙を習慣づけ、その大切さと難しさを実習させる教材的価値はないだろうか。

学 校 長 あ い さ つ

校 長 岡 本 博



七十三年の歴史と伝統を誇る本校に就任しては一年になります。この間地域の各界において同窓生の方々の御活躍のようすに接し誠に心強く御同慶にたえません。

また日頃本校教育のため物心両面の御協力をいただき深く感謝申し上げます。

同窓会報「真農」の発刊に当たり学校の近況を報告し所信の一端を述べあいさつにかえたいと思います。

今年(1)農業高校に学ぶことに誇りと、やればできるという自信をもたせたい。

(2)生涯にわたって生き抜いていく

祭の式典会場で表彰されることになりました。先輩の汗と土にまみれながら環境緑化に努めてきた十年間の成果であり、同窓生、PTAの方々、地域の皆様から感謝しております。緑の木々に囲まれたこのすばらしい環境を本校の誇りと今後ともよき伝統として後輩に継承していきます。

去る三月三日に同窓会長さんをはじめ来賓多数の御臨席をいただき昭和五十五年(第七十一回)卒業式を挙行し二三名の卒業生を送り出しました。同窓生の数も一〇、七八七名の多きに達しました。

卒業生諸君によき卒業生としてよき同窓生として「頑張れ」と激励しましたが各地域において先輩のよき御指導をお願いいたします。

三月十九日昭和五十六年度合格者二一四名を発表し来る四月七日入学式を挙行することになりました。

農業高校志願者減少の傾向の中で全学科定員を超えたのは本校だけでした。また昭和五十二年

土台となる基礎力を身につけさせたい。
(3)自ら学ぶ姿勢と力、自主的な学習態度を育てたい。
(4)どのような困難にもくじけないたくましい実行力を育てたい。
(5)力を合せて仕事をなしとげる連帯感と協調性を養いたい。

同級会便り

同窓会副会長 大倉 一郎



私共第十九回卒業生(昭和四年)は、同級会を毎年のように、温泉地で開き「おいお前と」学生の昔にかえって思い出話に夜の更けるのも忘れ、話がはずむのである。農業の話、孫達の話、昔の修学旅行からクラブ活動等、ほんとうに楽しいものだ。毎回集まるメンバーの横顔を思い出したい。
小玉光蔵君 益子町、同窓会益子支部長を長い間つとめている。学校では陸上競技の選手だった。弁論部の雄でもあった。そんな関係か、今日でも元氣潑刺とした青年青年だ。しかし君の本領は母校愛に燃え、今日の真農高の発展協力に大きな力となったのである。
吉田昌弘君 学校時代は学業成績が良く、口数の少ない謹厳居士だった。しかし今日の吉田君は当時

こんなことを願って教育指導に当たっております。
今後とも母校発展のため、ひいては地域農業振興のため力強い御支援をお願いし、同窓生各位の御活躍と御発展をお祈り申し上げます。

とはまったく変わった。弁説は時間と共に熱があがり徹夜組の一人、一度も欠席したことがないのには頭が下がる。益子町、益子町の出身、波乱に富んだ人生を歩いて来た。役人となり朝鮮に渡ったが難病に帰国、今市市大沢に永住の決意を固め、寒冷地原野の開拓に文字通り苦闘した。その努力の甲斐あって今日では一千万を超える年収の農家となった。陸上競技の選手、同級会開催の幹事役をいつもつとめる。谷口右近君 益子町の出身だが現住所は黒磯市錦町。警察官として永く那須地方の治安をまもった。警察官としては最高の榮譽といわれる警察庁長官章を受章した。柔道選手だった。
大坪秀雄君 鳥山町向田出身。卒業後直ちに満州に渡った。終戦の結果帰国し、谷口君と同じ黒磯市共豊社に、食品酒類業を営んでいる。おしゃべり組ではないが、飲む程に酔う程に、白い顔は紅々と燃えるが膝を崩すことはない。

直井忠一郎君 役人生活卒業後建設会社に精進している。庭球選手でも確実にボールを返し相手のミスを持つタイプ。会合でもお話は聴き役、白い歯を見せてうなずくのは学生時代と変わっていない。
清水仙重君 庭球選手の前衛だけあって、ネット前にボールをきめるように、落語調の雑談で人を笑わしている同級会の人々者だ。真岡市島の出身。
小宅栄君 これ以上真面目人間は居ないだろうと、誰からも尊敬されている。典型的な明治生れの良さを持った温厚篤実の人である。

同窓会物部支部長、小玉君と仲良く学校事業に寄与してきた。二宮尊徳に由緒ある家系、若くして物部村会議長もつとめた。又歌人としても一家をなしている。
土井光一郎君 学校一の美少年だった。しかしその道程は地方議会だった。二宮町議長の席にもついていたが、学友にはご無沙汰して済まなかった。これからは仲間へ入れてくれと、顔を出すようになった庭球選手、剣道も有段者で副将をつとめた。小宅君と同じ二宮出身鶴見博君 二宮町久下田農協職員として役員もつとめた。最近住居を新築し、孫を相手に愉快な毎日を送っている。同級会では話題の尽きない徹夜組の一人、美声を張り上げての演歌も堂々たるもの。間々田弥惣治君 茨城県下館市出身、農業は長男夫婦に譲っての菜園。時々いちごや花の栽培を手伝っている陽気な生活振りは、同級生羨望の的だ。

大根田一之君 真岡市山前の出身海軍志願で小佐まで進級した。しかし終戦後心機一転、酪農家として成功した。宇都宮市屋敷在住、有段者で剣道の選手、心身共に衰えを見せぬ青年である。
和田常吉君 元警察官だが、有名な殺人犯逮捕で一躍有名になった。退官後は宇都宮鶴田に在住し、老人クラブのリーダーとして自適の生活を続けている。
岡半君 茂木町北高岡の出身、た

教育雑感

教頭 渡辺 寿一



芳賀地域にあって、農業教育のメッカとして、七十三年の歴史と一万余名の有為な卒業生を送り出し、輝かしい伝統を誇る本校に勤務を命ぜられ、はや一年を経過しようとしております。
学校教育の遂行に当たっては、多くの卒業生各位の御理解と御協力を得ることが不可欠であります。幸いに本校は、卒業生が地域の関係機関、団体の要職にあつて、それぞれの立場から御協力をいただき、また、よきリーダーのもとに不動の同窓会が母校の教育遂行に組織的な御援助を賜っており、お陰をもちまして大きな

ばこそ専売公社を定年退職後は、商社に勤務、韓国出張が永いので欠席である。
同級会で話題になる先生は、相馬助五郎校長、篠崎教頭そして小倉利平先生、配属将校の益田先生、藤井、山田秀、高橋又先生から福田、醍醐、横溝、山田貞義先生等で、甚だ失礼ながらニックネームで呼ばれて貰っている。これはお許しをお願いしまして同級会便りを終ります。

教育の成果を納めて参っております。ここに衷心より感謝申し上げます。ここに衷心より感謝申し上げます。戦後の高等学校農業教育は、戦前の教育の反省に立って、地域社会の実態に応じた教育を重視するとともに、生徒の興味や必要を十分考慮して改革を進めてきました。が、昭和四十年代後半から、多様な目的をもち、多様な能力・適性の生徒が入学するようになるとともに、一方では、学校をとりまく地域社会の変貌、農家の生活習慣や職などが、著しく異なるようになった最近の変化に対し、農業教育は、もっと幅広く地域に開かれた教育を推進しなければならぬと考えます。
御承知の通り、現在、高等学校への進学率は九十四パーセントを超え、高等学校が青少年の大部分の者を教育する国民教育機関として

ての性格を一層強めております。このことは、国民として共通に必要なとされる基礎的、基本的な内容を重視して教育が行われるよう配慮するとともに、人間としての在り方を追求していくことを主眼としなければなりません。同時に具体的な地域社会の個々の価値や常に浮動する機能的な現象を重視して、本心に生きた教育を展開しなければならぬと考えます。
このために、私達教職員は、より豊かな人間性を培い、優れた人材を育成し、地域社会の要請に応えるため、常に地域の課題を注目し、地域社会の歴史を創り出していく英知と情熱と実践力をもって職務に精励して参りたいと存じます。

どうか、同窓会各位におかれては、今後とも、多面にわたって本校教育の推進に一層の御助力を賜りますようお願い申し上げます。
全国緑化コンクールで最優秀賞を獲得
昭和五十五年度全国学校環境緑化コンクールにおいて、本校が特選(日本一)に選ばれました。
このコンクールは、毎年行なわれ、緑化への認識、その整備利用など色々の面から学校の環境緑化が問われるものです。先輩方から受け継がれた素晴らしい環境と、生徒達の奉仕作業などの活動が認められて、このほどの授賞となりました。

母校を偲んで

同窓会常任理事 金 敷 芳 雄
山前支部長

昔と云えば十年を一番と申しますが、私が真農校を卒業したのは、昭和十六年十二月で繰上げ卒業でした。第三学期分は一日七時間授業をする事によって、一年間の授業の単位を取る事が出来卒業と成った訳です。大東亜戦争の開戦の時でした。「十二月八日」今から四十年前、大分古い話です。学校の生徒数は、一学年五〇名で全部で一五〇名の定員です。二宮金次郎先生の教えである報徳精神を叩き込まれ、一に報徳二に報徳と教えられたのです。卒業後は農家を継ぎ立派な農業人として生活するのだと心に秘めて学業に励んだのでした。支那事変から大東亜戦争。世界戦争にまで発展する勢いでした。戦時体制の中の学校生活で異状な程力の入った勉強に、実習に、又学校教練として軍事訓練を強く教えられ国の為にと皆で頑張りました。運動競技の中に国防競技まであり其の全国大会迄あったのです。実習の主力は、大野原農場で学校から四キロメートル以上あり徒歩又は自転車を通い作業をしたのです。その内容は開墾をしながら農場を作り農作物を栽培したのです。当時の作物の代表的な物は、小麦芋麻位いの物です。収穫等は小麦で二俵（反当）位で非常にやせ地でした。収穫物は思う様にいきませんので地力増進に全力を上げ堆肥を充分入れ土作りに邁進したの

て家業についてもらうべく真農農業高校に入学させて近代農業経営を身に付けてもらい今では立派な農業後継者として米作りプラス養豚経営を着実にやり立派な農業人として頑張っています。ありがたいことです。真農校の教育の有

後継者として十年

同窓会青年部副部長 小 倉 仁

私が農業後継者として就農したのは、今から十年前の事です。当時は農業政策も充実しており、米は作れ作れの開田ブーム、野菜類もハウス栽培の全盛だった様に記憶しています。私はたばこを栽培していましたが、たばこも他の作物と同じく生産生産の掛け声と共に当時二haだった耕作面積も三haまで拡大して現在に至っております。

いわゆる農業の良き時代だった訳です。しかし、それから三十四年の歳月が過ぎた頃、あのオイルショックのあおりを受け農業全般に大打撃を与えました。米の生産調整もこのころから厳しくなってきたことを覚えています。こんな

行った農業情勢の中で、農家の収益は増えているのか？いや逆に下降しているのではないだろうか。生産費の上昇、生産物価格の横這、当然収益は減る訳です。



最近後継者の集いなどに参加しても「農業だけではとても喰って行けない。」「家族四人で勤めに

生徒会活動報告

生徒会顧問

日 渡 守

本年度の生徒会活動は茂木町県婦人の家やまなみ荘における春季研修会より始まった。一学期が始まると、生徒会部活動紹介、部長会議（予算について）、常任委員会・そして生徒会総会へと目白おしに行事が続いた。

今年度の生徒会役員の様子を見ると、取り組む時間が早い上、着実に努力していくという望ましい実践態度を発揮してくれたようである。行事に対する見通しも的確であり、指導する方も大変楽であった。それゆえ常に前へ前へと進むことができたと思う。一学期は校内球技大会・関東大会出場者の壮行会・野球部県大会の応援、高寺下から本校までの道路沿いのアキカン拾い及び市体育館周辺の清掃などを行なった。

二学期は合唱コンクール、秋季運動会、学校祭、役員選挙及び役員選出などを行なった。秋季運動会の日、今年は珍しく雨に見舞われはらしたのが、若いエネルギーがその雨雲をふきとばしてしまっただけで、また十月の栃の葉国体に対しても生徒会は成功に終わらせようとして全面的にしかもできるところから着実に協力することにした。

三学期はスケート教室、生徒会総会、予備会、常任委員会、反省会、新旧役員事務引継ぎ、春季研

優良農家紹介



修会などを行ない、有終の美を飾るべく努力した。部活動も着実な伸びを示し、成果をあげることができた。来年度はもっともっと成果をあげられるよう頑張りたいと思う。

昭和五十三年より本校卒業生のなかから優良農家を並び同窓会総会の席上表彰いたすことになりました。本年度の受賞者は次の通りです。

- | | | |
|-------|---------|-------|
| 南雲 明 | 昭和二十八年卒 | 真岡市東郷 |
| 横田 敏夫 | 昭和二十九年卒 | 二宮町横田 |
| 柳毛 功 | 昭和三十七年卒 | 真岡市西沼 |
| 薄井 正一 | 昭和四十年卒 | 下館市奥田 |
| 鈴木 栄 | 昭和四十年卒 | 二宮町鹿 |
| 鶴見 秀雄 | 昭和四十七年卒 | 真岡市長田 |

海外研修記

アメリカ農業研修を終えて

三年 天満屋 智子

七月二十二日、期待と不安に胸ふくらませて、米国農業研修へと出発しました。ロサンゼルス空港を出ると、太陽が照りつけているのに、風は涼しすぎるほどでした。目の前を行きかう人や車、耳にする言葉に、アメリカへ来たことを実感しました。

初めの五日間は、現地の大学を借りて、英語会話や学習会を行いました。最終日にデズニランドを観光しましたが、その素晴らしさは言葉で表わし切れません。まさに、おとぎの国に迷い込んだ気分でした。広大な園内は、紙くす一つ見当たらないほど清掃が行き届き、人々は長い列を作って、乗り物の順番を待っており、われ先になどという人は一人もいません。国民性の違いを痛感させられました。

二十七日から三週間は家庭滞在で、私はフレズノに住む大学教授のウィリアム夫妻の所へ行きまし。ここで一番困ったのは言葉でした。言葉が不自由なため思わぬ誤解が生まれ、これを解くのに苦労しました。しかし彼らは、私たちのために日本語を勉強しておりいつも気を遣ってくれました。共に料理を楽しんだり、父や母のように甘えもし、やさしい家族の中で充実した毎日をすごしました。

フレズノはぶどうの集散地で見渡す限り畑が続いていました。世界中に干しぶどうを輸出しているサンメイト社もここにあり、このぶどうは日本と異なり一メートル程の高さに仕立ててあります。根元にはホースが通っていて、一定時間で灌水をします。雨が降らず、気温が四十度にもなるので、一日でも灌水を怠ると枯れてしまうということです。収穫すると、畑のかたわらに広げた紙に並べ、カリフォルニアの太陽と空気で、たちまち水分が蒸発し、レーズンになるのです。ここではワイン工場も見学しました。オレンジ・ざくろ・オリブ・いちじく・と果てしなく広がる風景にアメリカの大きさを感心しました。

とにかく、毎日発見と驚きの連続でしたが、私はこの研修で失敗を恐れずトライする精神と人への愛を得ることができました。

国際理解のための高校生海外派遣に参加して

二年一組 小林 一男

私は、第一回高校生海外派遣団の一人として、七月二十七日から二十七日間、ブラジルに行っていました。

私たちはサンパウロの栃木県人宅にお世話になりながら、周辺の先進農家や試験場を見学して回りました。まず感じることは、とにかく土地が広大なこと、サンパウロから六百キロ内陸部のフランチカでは、穀物作付農家の耕地が平均二百ヘクタールもあり、ユーピー・トマト畑もはるか地平まで続いていた。県人の坂本氏は百三十ヘクタールの農場に、ユーピー・トマト・カボチャ・パイヤを年中作付けし、安定した収益

を得て、一日でも灌水を怠ると枯れてしまうということです。収穫すると、畑のかたわらに広げた紙に並べ、カリフォルニアの太陽と空気で、たちまち水分が蒸発し、レーズンになるのです。ここではワイン工場も見学しました。オレンジ・ざくろ・オリブ・いちじく・と果てしなく広がる風景にアメリカの大きさを感心しました。

しきり、二十五年前の思い出話に花が咲き、世界の狭さを身にしみて感じました。

ブラジルは、急激な近代化の結果として問題もかかっています。下水道が整っていないため川には悪臭が漂い、私たちが行った日も目を開けていられぬほどの光化学スモッグが発生していました。

大都会の裏側には貧民街があり、終戦直後の東京を思わせるバラックが立ち並び、電気、水道も通っていないように見えました。子供たちはいずれもはだしで、観光客とみるとお金をねだりに寄ってくるのです。

ブラジルは、現在発展途上でやる気さえあれば何でもできる可能性のある国です。私も機会があれば、この地で思い切り農業に打ち込んでみたいと感じました。

学校祭に参加して

家庭クラブ会長

花井美貴子

私達は学校祭で研究展示をしました。その中のひとつとして今年九月の家庭クラブの研究発表大会で発表した「メモをとりまじょう」という内容の発表文をテーマにふきこみ、さらに詳しく内容を揭示し、クラブ員がいっその関心をもつてくれるよう研究発表展示のコーナーを設けました。研究の途中での思い出はいっぱいあります。問題点が多すぎて頭をひねっ

た事、スライドと説明でより高い効果を上げるにはどういう組み立てにするかと苦しんだ事。半面には、発表会を無事終了したの安心感……。

学校祭を通して、又、その他の展示物、レースあみや、フランス刺しゅうなど他の人の作品を見ることによって「自分もやろう、やってみよう」という気持ちをおこして下さったことと思うし、そういうクラブ員がひとりでも多くいてくれる。増えてくれる事により家庭クラブを盛りあげて行く力となると思います。

学校祭に家庭クラブとして参加して、多くの先生方、そしてクラブ員のみならずの協力を得ることができました。おかげですばらしい、思い出深い学校祭にすることができました。本当にありがとうございました。

学校のおもな動き

教務部

- 十月七日 秋季運動会
- 十月十四日 栃の葉国体見学会
- 十一月十二日 学校祭、収穫祭
- 十二月六日 農業教育推進協議会
- 十二月二十五日 強歩大会
- 十二月二十六日 終業式
- 一月十三日 始業式
- 一月二十日 モデルスクール中間発表会
- 三月三日 卒業式
- 三月十六日 入学試験
- 三月二十三日 修業式
- 学年関係
- 十月三十一日 二年生PTA
- 十一月二十四日 二年生PTA
- 十一月二十四日 二年生PTA
- 年修学旅行

十一月二十七日 一、三年生遠足
一月二十八日 一学年PTA
二月十七日 二十一日 卒業学年に対する進路別学科別特別指導

射撃部

十月十四日 栃の葉国体ビームライフルジュニア立射四〇発競技出場第九位、二ノ四高橋喜代己バトミントン部

十月二十四日 第二十九回県総合バトミントン選手権大会、女子ダブルスベスト八位

十一月五日 小菅佐都子
一ノ五 関岡 洋子

陸上部

十一月十日 県高校駅伝大会十位
十一月十一日 県高校陸上競技新人大会
十一月十六日 大会 槍投げ一位
円盤投げ 六位 二ノ四 青柳道久 三段跳 二位 百十メートルハードル 五位 二ノ二北渡浩 砲丸投げ 六位 一ノ四水沢聖志 槍投げ 七位 二ノ六水沢咲子 砲丸投げ 七位 一ノ六 竹村雅代

サッカー部

十一月十五日 中部地区新人大会
十二月七日 二勝一敗一引分け
十二月二十日 決勝トーナメント
十二月二十一日 二勝一敗
県大会出場権獲得

編集後記

この会報が、会員一人一人にもなく配布されることを希望します。この会報発行を機会として、今後なお一層同窓会活動が活発になり、或は問題提起となれば幸いです。原稿資料をお寄せ下さいました方々に、心からお礼を申し上げます。